

洋書輸入協会会報

VOL. 5
NO. 10

(通巻54号) 昭和46年10月

理事会報告

9月14日(火)

理事会及び懇談会(於出版クラブ)。

情報交換。

9月27日(月)

情報交換。

入会希望者の検討。

その他報告・連絡事項若干。

文化厚生委員会だより

第1回マンモス麻雀大会は9月11日(土)午後神田・アイウエオ会館にて各社の天狗48名が参加、技を競った。回数が少なかった為充分実力を発揮出来なかった選手も居られた様だった。入賞者下記の通り。

1位 原田(洋販) 2位 鈴木(カイガイ) 3位 柴田(丸善) 4位 阿部(中央洋書) 5位 野尻(白水社)
6位 唐沢(ゲーテ) 7位 内田(オ三書房) 8位 浦沢(南江堂) BB 下地(ウェザヒル)

競技終了後賞品授与、夕食、懇談、午後6時盛会裡に幕を閉じた。

幹事 村山(ゲーテ)



一ラウンド終了間近。人情委員長は牌の積みこみをしている卓があると、なかなかベルを鳴らさない。



得点の集計をする文化厚生のスタッフ。電卓まで持込まれ、迅速、正確な計算は好評を博した。

洋書学ことはじめ (IX)

製本のこと (4) 表紙材料 — 革

八 木 佐 吉

飾っておく本は別として、普通一般の本は主題の如何にかかわらず、中身の本文を読んで貰うのが、それを刊行した主目的である。製本はこの主体を護るための皮嚢であり、外壁門扉である。それ故に中身につりあった外側でなければならない。お互いがそぐわないものであってはいけないのである。夫婦と同じく“釣り合わぬは不縁のもと”ともいえよう。edition de luxe などといって、いたずらに豪華な装幀をした出版物でも、本文が採るに足らなければ、にわか成金、成り上がり者の門構えと同じで、こけおどしの製本としか読者の目には映らないものである。

出版社製本にしても、個々の諸(もろ)製本にしても、この釣り合い、むしろ中身の人柄ならぬ文柄(ふみがら)を映し出すような表紙でありたいものである。ときには簡素であり、ときには美という点も考慮されねばなるまい。

が、しかし、何と言っても古来いわれているように、製本し表紙をつけることの才に意を用うべきは、閲読の際の便を主とすべきである。次いで保存のためのよき条件を満たすことであろう。図書を出版し造本にたずさわるすべての人達それぞれに好みがあり、希望もありで、こうあるべきが本筋であるとも言えないが、大体の要求に答え得る表紙材料は革であるといってもよいと思う。下手の長談

議はこのくらいにして、本文に入ろう。

革の字が出てきたので皮革の表紙材料の名称を並べ、いくばくかの説明を添える。

製本用皮革・bookbinder's leather

主として羊、山羊、犢、牛、豚、アザラン等の生皮をなめたもの。製本用クロスが発明されるまでは、製本の表紙の主役であった。柔軟で、耐久力に富み、外観のよさ、手ざわりのよさ、材料と鞣し方、仕上げ方で多種多様に分けられ、各々特長をもつ。その中でも

Morocco モロッコがわ

は最良にしてしかも高級の表紙材といわれる。モロッコにも何種類かあって、実のところわたくしにも、ある一部の革装本を出されて、“さあこれは何モロッコか?”といわれると返答に困ることがある。知ったかぶりは出来ない。それでつい単にハーフ・モロッコだとか、フル・モロッコ装などとあたりさわりなくゼネラリーにになってしまうのである。

モロッコ革はそもそもは北アフリカまたはモロッコ地方産の山羊(goats)の皮からの鞣し革のことである。品が好く、肌理(きめ)は柔軟、その上強靱で、耐久性あり、

粒理（しば）はこまやかで手ざわりはまことによい。小アジアやスペインでは中世紀から写本類の表紙に使われ、イタリアからフランスにかけては十六世紀頃から珍重された革である。しかし、今は原産地による限定はない。

Levant morocco

Niger //

French //

Persian //

Turkish //

などというモロッコ革は各々その産地名を冠している。

sheep ひつじがわ

製本用として最も普遍している革。耐久力もあり、触感もなめらかであるが、山羊革よりは劣る。人工的に粒理を施こしてモロッコの代用とすることもある。わが国では通称ヤンビといっている。これは明治初期以来の羊皮をなまっただ呼び名である。

ここでちょっと粒理（シボ）にふれておこう。

grain 粒理 シボ

革の表面——毛のある側——の顆粒。もともとは毛穴による凹凸。人工的に型づけることが多い。それから

皮は獣のあらかわ・生皮のこと

革は毛を除去し、皮を鞣したものとのこと。

話が前後したが付け加えておく。

roan ローン 軟羊皮

羊のまるかわを特殊の鞣し方で仕上げたもの。極めて柔か

な手ざわり。損傷し易く、女性的の革とでもいうか。

parchment パーチメント 羊皮紙

羊、小羊、山羊、犢の皮から鞣製する。脂肪をぬぎ、石灰処理、漂白し磨いて表裏ともに平滑にする等の処置を施す。名称の如く、もともとは羊の皮から製した。植物繊維の紙の発明以前からの書写材料、パピルスに代るものとして紀元前2世紀頃から小アジア、ヨーロッパ南方で使われていた。現今でも貴重文書、條約文、学位証書などに往々使われている。

パーチメントという名は昔の主産地小アジアの Pergamus に由来するという。これのやや強靱で腰のかたいのを

vellum ベラム

という。製本表紙材として、しばしば使用されている。これは主として犢がわである。

vellum と称し、parchment というともほとんど両者に区別はない。欧米の private press (私家限定版刊行所) 等にては時にその出版書に紙刷りの他、小部数のベラム刷りを限定出版することが今でもある。また、明治初年以來わが国で抄造輸出した局紙を、その肌合いの似よりから Japanese vellum と呼んで特殊限定本、條約文書等に使っていることも書き添えておこう。なお、parchment paper 硫酸紙というのもある。これまた触感からの命名である。

calf カーフ こうしがわ

犢皮を鞣した製本用の革。厚手の図書向き。モロッコのよ

うに優良ではなく、それ程強くもない。表面は滑らかで均一性も、つやもある。脂肪がぬけると表面がむけ易いのは欠点。特製本では表紙の芯の板紙などをくるんだのち、革の褐色地へ更に炭酸カリ、硫酸鉄などで着色模様をつけることがある。この場合その紋様によって次のような個々の名称が与えられている。

sprinkled calf 霧染め

mottled " 斑点

tree " 樹形

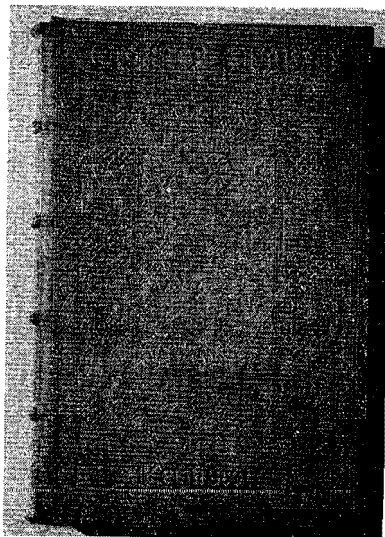
marbled " 大理石模様

Russian leather ロシアがわ

主としてロシア産であったからの名称。若い牝牛（めうし）の皮をエゾ松、柳の樹皮などからの抽出タンニンでなめした革。防水性が強い。製本用のほか袋物などに使う。

pig-skin ビッグスキン ぶたがわ

豚の革。厚く強靱で耐久性に富む。大部大形の書籍の製本



ケルムスコット チョーサー
白豚革装 大形フォリオ判

用に適す。柔かさがないので仕事が難かしい。粒理あらく、毛穴がハッキリ現われているので、革の中ではもっとも判別し易い。ケルムスコット版チョーサー著作集（1896年刊）の特装本の白豚革空（から）押し製本は特に有名で、同プレスの装幀家 Cobden-Sanderson（1840-1922）の傑作とされている。

seal シール あざらしがわ

海豹の皮からつくる。モロッコ革に似て、なお一層高級。粒理こまか、強靱にして柔軟。最高の製本材料といわれている。かつて一代の書物学者内田魯庵さんは“海豹の革というのは質が極めて緻密で、触覚が軟かく、撫摩するにしたがって光沢を増す気もちのいい革だ。革のなかの錦紗という手触りである”と書かれた。

Cordovan コードバン

馬の尻皮から製した革。表面が堅く、光沢があり、張りきった感じがある。ロシア革に似ているともいわれる。スコットランドの著名蔵書家 Third Duke of Roxburghe（1740-1804）が好んで造らせた背に無模様の馬革を用いた装幀方式をロックスボロ製本という。

なお、コードバンの名称の起源はスペインのコルドバ地方産の山羊皮から製した精良な着色革に由来し、それに似た馬革がとって変ったのであるといわれている。

手持ちカメラを使つての簡単な複写

鈴木和夫

「写真術入門」という本が書店の書棚の片隅に必ず置かれていた時代があった。写真機というものが今日程普及せず、又それを使うことに或程度の技術とか知識、或いは習練を必要とした時代である。しかし現在の進歩したカメラや器材は、そのような事を昔話にしてしまったし、今日ではその普及度は目覚ましく、恐らくカメラをいじったことがない、という人は稀なのではないかと思われる。

しかし、その一般的な使い方を考えてみると、旅行の時によら下げて行くとか、何か事があると持ち出す程度で、押入れの中に眠っていることが案外多いものである。勿論、これは趣味の道具だからと割切つてしまえば、それはそれで良いのだが、使い様によっては我々の日常の仕事に随分と役立つものなので、その利用法の二、三を御紹介してみようと思う。高度の専門知識や特別の器材を必要としないことがその前提条件である。

まず対象を本に限定することにして、それを撮影する場合、通常のフィルムを使つての写真と、マイクロフィルムを使用するそれとに大別することが出来る。どちらの場合も接写することが必要になり、その為に普通写真とは少し異った点が出て来るが、それについては後に述べることにする。

通常フィルムは、本全体を撮る場合（宣伝カタログ等の使用の為）、或は製本の状態等を記録する場合に使用する。我々輸入業者が悩まされる輸送途上の荷傷みなどは、クレームに写真を一枚添附することによって遙かに説得力を増すことが出来る。また出版社、輸出業者によっては、甚だ不完全な包装で送ってくるところも間々あるから、それを改善させる意味でも、一葉の写真は数枚の手紙に勝つことがある。無残に圧し潰された包装物が到着したら、開包前、開包途上の中包装の状態、そして傷ものになった内容品と、この三点を記録撮影しておけば完全である。此の程度の撮影であれば特殊な技術は一切不要で、照明設備がなければ、日中戸外に持ち出して撮ることも出来る。しかし損傷程度をはっきりさせようと思つたら、人工光を使った方が良い結果が出る。300W 程度の写真用照明電球を片側

から当てると、陰影によって損傷が——時には実際よりも誇張されて——明瞭に記録される。

印刷物を複写することは、現在では殆ど複写器にまかせれば良く、カメラを持ち出す機会は少なくなったように思われるが、それでもたまたま航空便で入手した一枚のカatalogが複写機に苦手な色の重ね刷りであつたり、或はその中の写真を是非生かしたい、というような場合、普通写真による複写が役立つこともある。又新刊案内などの極く微少な情報などは、マイクロフィルムで撮影し、拡大焼付をして利用すれば、お客には——特にお年を召した先生方などには——喜ばれることであらう。

しかしこれらの作業は複写器を使用するそれに比して矢張り繁雑であるし、又コストもかかる。むしろ最近利用度の高いオフセット等の軽印刷の原稿作りの中間作業として写真を導入する方が、より高率の高い利用度と云えるかもしれない。例えば原カタログ中の美しい書体で刷られたタイトルとか、写植原稿の一部を転用したい時、とにかくネガ撮りをして置くことである。複写器では不可能な拡大、縮小が自由な写真でなくては出来ない利用分野がこゝにひらけることになる。

複写のための器材や注意について、以下簡単に記すことにする。

- (1) カメラ：手持ちのものを先ず使つてみることである。勿論、レンズファインダー式（覗き窓を覗くと、二重像や上下像がずれて見え、それを一致させて距離を合わせるもの）より一眼レフが便利であり、中でもレンズ交換の出来る一眼レフが最適である。しかし、一眼レフでなければダメだろう、などと思わずに、とにかく手持ちのカメラを利用する方途を考えてみることである。
- (2) フィルム：普通写真にはFを使う。感度は低いが、硬調フィルムである為、文字と写真の両方ある印刷物等の複写には、或程度マイクロフィルム的な使用が可能である。白黒の印刷物等の複写にはマイクロフィルムを使う。ミニコピーという名で普通フィルム同様36枚撮りのものが市販されている。（つづく）

会 員 紹 介

ア カ デ ミ ア 洋 書 株 式 会 社

本年4月本会に入会されたアカデミア洋書株式会社は1966年1月の創立であるから、いかにも新しい会社であるかのように見えるが、社長中井喜代治氏が洋書業界のもっとも古い先輩のひとりであることは御承知のとおりである。

戦前十数年勤めておられたドイツ法人グスタフ・フォックス書店東京支店の時代はさておいても、台湾から復員された半年後の1946年の10月には中井書院を開業され、その後ずっと、古書・バックナンバー、洋書の世界を歩んでいられる。中井書院はやはり理化学、とくに合成化学・有機化学工業の古書・バックナンバーを主として取扱ったが、パイルシュタインのハントブーフを売って、家を建てた先生もあったというような時代であった。

割当制で洋書の輸入が開始されたので、1952年には現アカデミア・ミュージックの平岩林氏と協力してアカデミア図書株式会社を設立され、そのご事業の発展にともなって、さきにのべたように1966年にいまの会社を設立されたのである。

生物学という限られた分野の専門書を扱う書店が存在することは、もちろん日本の学界の状況の反映のひとつではあろうが、きわめて貴重なことであり、こんごの繁栄・発展を期待したい。

ニ ュ ー ス

- 丸善株式会社社長司忠氏は、9月25日付で会長に就任され、後任として飯泉新吾氏が社長に就任されました。
- 当協会才三回フランクフルト書籍展視察団——団長・東光堂書店石内茂吉氏——は10月4日10時さいしょの目的地ロンドンにむかいJAL機で出発した。団員40名。フランクフルト書籍展会長あて協会理事長名で一行の訪問を連絡したところ、折返し歓迎の電報がはいった。一行の訪問の成果が期待される。
- 英国 Chapman & Hall Ltd. の Managing Director, Mr. Noel Hughes, 9月下旬来日。
- 英国 Macmillan and Co., の Managing Editor, Mr. Terence S. Creed, 10月上旬来日。
- 西独 Springer-Verlag の Mr. Holtz, 9月下旬来日。
- Springer 東京事務所閉店

昭和46年10月15日付で Springer-Verlag 東京事務所（日本代表矢沢静子氏）が閉店した。10月16日より同社の日本における代表は Eastern Book Service 社に移管された。オーダーは従来どおりベルリンまたはウィーンに送ってほしいが、都合によっては、Eastern Book Service 社でもよい由。

海外ニュース

「フランクフルト書籍見本市」

第23回フランクフルト書籍見本市は、1971年10月14日から19日までの期間にわたって開催されるが、今年も昨年の規模を上回り、史上最大の書籍見本市となることは確実である。

すでに58カ国の3,522の出版社が、見本市の事務局に参加を申し込んでいる。出版物の版權や翻訳權などの取引の場としての見本市の意義は、外国の出版社にとって特に重要なものとなってきているようだ。外国出版社の参加申し込みは、昨年より102社増えて、2,465社になっている。初参加の国には、エチオピアとアフガニスタンがある。ドイツの出版社の参加数も同様に増えて、1970年の855社から、今年は877社となった。その中東ドイツから40社参加している。展示される書籍は、約241,000点で、その中の新刊書は78,000点である。今年も「1970年の最も美しい本」の展示会が23カ国の参加によって行われるほか、数多くの附属展示会が開かれる予定である。そしてこの見本市には、12万人の人が訪れるであろうと見込まれている。

(Börsenblatt f. d. Dt. Buchhandel—Frankfurter Ausgabe, 9月3日号より)

「ルック」誌廃刊

アメリカの、“Life”と並ぶ代表的な大衆誌“Look”は、10月19日号をもって、創刊以来34年の歴史を閉じることになった。

この発表は、この雑誌の創刊者で、Cowles Communication社の編集長であるGardner Cowles氏によって9月16日に行われた。この「ルック」や「ライフ」の財政困難はすでに2年ほど前から伝えられていたが、突然の廃刊は、各方面から驚きの念をもって迎えられているようだ。

廃刊の理由はいろいろあるが、Cowles氏によれば、その一つのきっかけとなったのは、来るべき郵便料金の値上である。

最大の理由は、テレビに押されて広告収入が減少したことであろう。650万部の発行部数をもってしても、1970年度には500万ドル減少、1971年の最初の9カ月間においては、すでにそれ以上の減少をまねいている。広告ページの増大、広告料の引下げなど改善策をはかったが、その傾向を食い止めることはできなかったようである。

「ルック」誌は、1937年創刊、当初は1部10セントで、当初の発行部数は70万部であった。創刊後10カ月で部数は170万部に伸び、1967年にはそのピークに達して、775万部の発行部数を誇った。広告収入が最大であったのは1966年で、年間8,000万ドルの収入を得た。昨年の広告収入は、

およそ6,280万ドルであった。

「ルック」の従業員は、編集及び宣伝部門に約200人、発送部門に約800人いるが、全員解雇されることになる。その退職金は300万ドルを超えよう。

なお、「ルック」誌の身売り、ないしその名称を譲渡するというような話は現在のところ全くなく、「ルック」誌は永遠に消え去るものようである。

(Publishers' Weekly 9月27日号より)

——紀伊國屋書店提供——

会員の横顔

白水社

本田喜恵

フランス書の白水社の洋書担当者として、いつも若々しい本田さんの姿はまことにふさわしい。

協会のパーティなどでも本田さんの周囲にはなんとなく華やいだ雰囲気が出される。背広のドブネズミ

族の中にあって、ベストドレッサーの一人ではないかと思う彼女の姿が目立つのは(御当人が好むと好まざるとに拘らず)当然のことであろう。

福井の生れで東京女子大の国文出身。だから「フランス語には月謝を払ったことがないです」と云われる。英文出でもろくにタイトルも読めぬ人にもいるのにこれはゴリッパと云わざるを得ない。学校を了えた時老舗のI書店への就職の話があったが、折角良い時代になったのに権威主義の城のようなところに入る気はしないと、より自由な出版社に就職、編集の仕事に携わる。それやこれやの縁で白水社に入社、洋書部を一人で切廻すことになり今日まで。

自分が本が好きなので、つい本を買うお客の立場になってしまい、売掛の催促などがやり難くなってしまおうという。「こんな事会社知れると怒られちゃうかな」と云われるけれど、お客筋は粋な仏文の先生方だし、会社とお客の板挟みになる彼女の苦衷は先刻お察しのことであらう。

遊ぶことは何でも好き。スキー、旅行、音楽、絵、麻雀と間口も広い。美味しいものを食べ歩くのも好きで、お酒も「少々」たしなまれる。専ら洋酒党で、ヨーロッパのホテルのバーで、コニャックのグラスを傾けるところなど板についた感じである。

文化厚生スタッフとして1969年の協会のオ一回欧州旅行には幹事をつとめ、その翌年は夏の間一寸姿が見えないと思ったら、「ヨーロッパひとり歩き」を楽しんでこられた。



総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

幙 極 東 書 店 ☎ 265-7531
Handbuch der sozialdemokratischen Parteitage
von 1910-1913. München 1917. X. 669 S.
Nachdruck 1972. Leinen (Zentralantiquariat
der DDR, Leipzig) ¥13,000

丸 善 幙 ☎ 272-7211
Sorby, Arnold (ed.) - Modern Ophthalmology.
2nd Edition in 4 Vols.
(Butterworths, London) set ca ¥60,480
Atlas der klinischen Hämatologie.
Begründet von L. Heilmeyer und H. Begemann.
2. Aufl. von H. Begemann und J. Rastetter.
(Springer-Verlag, Berlin) ca ¥14,000

Keesing's Contemporary Archives: Weekly Diary
of World Events (Keesing's Publications Ltd.)
1 year subscription
by sea mail ¥11,900
" with 2 year binder 14,800
by air mail 15,900
" with 2 year binder 19,700

幙 マ テ マ テ イ カ ☎ 814-9729
Philosophia Mathematica; the Official Journal of
the Association for Philosophy of Mathematics.
Vol. 1. 1964 ¥3,750
Vol. 2. 続刊予定 (Journalfanz, F.R. Germany)

ナ ウ カ 幙 ☎ 981-5261

Veb Bibliographisches Institut, Leipzig.

All Publications.

Veb Vlg. Enzyklopädie, Leipzig.

All Publications.

Kraus Reprint, Lichtenstein.

Political Affairs. (Formerly: The Communist)

Vols. 6-44. New Yor, 1927-1965.

cloth set ¥674,000

paper set ¥605,400

(Vols. 1-5: In prep.)

Annales de l'Institut Henri Poincaré.

Vols. 1-18. Paris, 1930/31-1963/64.

cloth set ¥116,100

paper set ¥96,800

Zentralantiquariat der DDR, Leipzig.

Der Volksstaat.

1869-1876, Leipzig. set ca ¥189,700

Das Volk.

16 nos. London, 1859. set ca ¥16,100

Slovaryj Cerkovnoslavjanskogo i Russkogo Jazyka.

In 4 vols. S. Peterburg, 1867. set ¥60,950

Opyt oblastnogo velikorusskogo slovarja.

288 pp. S. Peterburg, 1852.

Dopolnenie k "Opyt oblastnogo....."

328 pp. S. Peterburg, 1858. cloth set ¥18,770

Arnulf Liebing OHg., W. Germany.

Sovetskaja Arkheologija.

Vols. 1-30. Moscow. 1936-1959.

subskr.-Preis set ca ¥241,500

after publ. set ca ¥331,200

Revue Roumaine de Mathematiques Pures

et Appliquées.

Vols. 1-13. Bukarest, 1956-1968.

set ¥262,500

Auxilibris, W. Germany.

Sudebnaja praktika Verkhovnogo suda SSSR.

1943-1956, Moscow, cloth set ¥207,000

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎ 262-5278

The Development of Industrial Society

Series I/44 Titles

(Irish University Press)

1971年11月末リプリント刊行 set ¥413,000

ひろく一般からの投書を募ります！

テーマ：洋書輸入協会にのぞむ

- 字 数：400 字内外
- 投稿メ切：毎月末
- 誌上とく名を認めます
- 取捨及び多少の加筆訂正については会報委にお委せ下さい
- 掲載分には薄謝を進呈
- 送 附 先：協会事務局宛

昭和46年10月 通巻第54号 洋書輸入協会

編集者 寺 久 保 一 重

☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関 西 支 部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329